



新潟県山田錦協議会 播種前研修開催

規模拡大には必須! 新しい農業技術を活用しよう

10年後の稲作を考える年にしよう

今年初めての協議会の研修を、2月22日中之島文化ホールに65名が参加し行われました。

協議会を代表して岩淵会長から、「昨年は天候に助けられて1等米比率が高かった。しかし、毎年天候が変わり今年も同じようにいくとは限らない」と指摘。そして「昨年から続く酒米の市場でのダブつきに触れ、「全国的に山田錦の生産者が増え余っている。これからは産地間、そして品質の勝負になる」と、品質のレベルアップの重要性を強調しました。

○特別講演
新潟県農業総合研究所専門研究員の白鳥豊様から、特別講演として、「水稻栽培における



硫化水素探知装置「稲用含鉄資材の開発」について、講演を拝聴しました。

水稻の秋落ちとそれに伴うイネごま葉枯病の拡大は、収量の減少・品質低下に繋がっていることを指摘。

稲わらの春すき込みや未熟な有機物の施用は、土壌の異常還元を招き、硫化水素等の有害物質による初期生育不良や登熟期の根腐れを助長する秋落ちを引き起こす。根腐れの要因の硫化水素を簡単に想定する方法、根腐れを助長する秋落ち、イネごま葉枯病を抑制す



○山田錦栽培のポイント
淡路先生から栽培のポイントについて解説。内山先生から種籾未処理について、金内さんとして昨年の特等になった実例を参考にしパネルディスカッションをしました。

る資料開発について講演(資料は裏面に掲載)されました。

○アイガモロボ
山寄副会長から、今年から試験的に導入する「アイガモロボ」について情報を提供いただいた。有機栽培に取り組んで様々な方法を試



しているが、これからの農業ではICTやドローン等を活用しなければ大規模面積をカバーできないことや、東京オリンピックに向かつて、農産物も国際規格である「グローバルGAP」を取得しなければ、価値が高まらない



種籾について 配布を開始します

引き取りを希望される方は事前に連絡の上、ご来社ください。

土日祝日はお休みをいただいています。ご了承ください。

い事。また、その先に海外に日本酒を輸出する原料にも国際規格が求められる可能性が高いこと、協議会で新しい技術や国際規格についても勉強していくことを提案。

今年の圃場研修で、アイガモロボも視察予定です。